# LGBTなど性の多様性を学ぶ先端的な科目を設置し、時代を創る人材を育成

## 早稲田大学 文化構想学部

### 性の多様性に関する新しい学問分野について学んでいます

セクシュアルマイノリティ（＊1）の社会運動の歴史や性の多様性を扱う「クィア・スタディーズ入門」という授業では、性に関する正しい知識がなければ人を傷つけることもあると学びました。（石山さん）

### 少人数でじっくり語り合いながら学べる環境です

少人数の授業が多く、車座になって行う『演習』では、互いの考えを語り合うことが重視されます。仲間や先生の意見を聴き、自分の世界がいかに狭いかを思い知りました。（中村さん）

### 授業で学んだ知識を生かしLGBT関連の学内イベントを企画

法学部所属ですが、文化構想学部の授業も履修中です。クィア・スタディーズ専門の森山先生に、セクシュアルマイノリティへの差別表現を考えるイベントにもご参加いただきました。（春藤さん）

### クィア・スタディーズなど先端的な科目を多数設置

早稲田大学文化構想学部は、既成の学問的な枠組みを超え、新たな学問領域を学生自らが創出することを目指して2007年に設立された学部である。6つの論系（＊2）が設置され、それぞれ先端的な学びが取り入れられている。

現代人間論系では、「性の多様性」を研究する新しい学問分野「クィア・スタディーズ」に関する授業を設置している。「クィア・スタディーズ」とは、セクシュアルマイノリティに関する学術的議論および社会運動の中から生まれた、人々の性と身体のあり方およびそれを支える社会制度

文化構想学部
文化構想学科4年
**石山桃子**
いしやま・ももこ
山形県立山形東高校卒業。幅広い履修が可能という特徴にひかれ、同学部に入学。

文化構想学部
文化構想学科3年
**中村友理奈**
なかむら・ゆりな
東京都立国際高校卒業。教育問題に関心があり、同学部に入学。

法学部3年
**春藤 優**
しゅんどう・ゆう
千葉県・私立昭和学院秀英中学校・高校卒業。法学部所属だが、文学部や文化構想学部の授業を履修中。

＊1 性的少数者。性のあり方（性的指向、性自認など）が、何らかの意味で多数派と異なる人々のこと。一般に、LGBTといわれるレズビアン・ゲイ・バイセクシュアル・トランスジェンダーだけでなく、それ以外の性的少数者も含まれる。　＊2 多元文化論系、複合文化論系、表象・メディア論系、文芸・ジャーナリズム論系、現代人間論系、社会構築論系の6つ。

を検討する学問分野だ。その分野を専門とする森山至貴（のりたか）専任講師の授業「クィア・スタディーズ入門」では、多様な性を生きる他者あるいは自分自身を理解する目的で正しい知識を伝えている。同授業の受講生には、セクシュアルマイノリティ当事者の学生も少なくない。

文化構想学部4年生の石山桃子さんは、「LGBTはセクシュアルマイノリティの一部でしかないなど、性の多様性に関する正しい知識を学び、自分の考え方が深まりました」と話す。

## 分野横断的に学びながら2年次に論系を決定

同学部では「クィア・スタディーズ」以外にも、「ジェンダー」「フェミニズム」「セクシュアリティ」などのトピックに関する演習、ゼミなどを多数開講している。様々な専門分野を持つ教員が在籍しているため、学生は、1つのトピックを社会学、法制度、文学など多様な観点から分野横断的に学ぶことができるのが特徴だ。文化構想学部3年生の中村友理奈さんが印象に残ったのは、10人程度で、文学作品を深く読み込み、ジェンダーの問題を考える授業だったという。

「仲間や先生の発言から気づかされたことも多く、多様な視点で考えるきっかけになりました。入学時は教育に興味がありましたが、ジェンダーについて関心が高まり、現代人間論系に進みました」（中村さん）

同学部では、学生の興味に合わせ先端的な科目を分野横断的に学べるよう、2年次からいずれかの論系へ進級する「1・3制カリキュラム」を導入している。1年次の必修科目は、6つの論系の概要を学ぶ「基礎講義」に加え、大学での学び方を学ぶ「基礎演習」と「基礎外国語」の3つのみだ。自由に学びながら道を模索できるのが特徴だ。

## 学部を越えて履修可能なオープン科目が多数

同学部では、所属する論系のコア科目を学ぶとともに、文化構想学部と文学部にまたがる1000にも及ぶ「ブリッジ科目」を選択して学習することができる。また、学部・学年にとらわれず、全学生が履修できる「オープン科目」も設置されている。そうした環境を利用して文化構想学部や文学部の授業を履修しているのが、法学部3年の春藤優（しゅんどうゆう）さんだ。

春藤さんは、キャンパスのダイバーシティを推進する学生団体に所属しており、セクシュアルマイノリティに関する正しい知識を得たいと森山先生の授業を履修している。

「他学部の授業を受けていると、法学部の自分とは違う見方を持つ仲間と話せることが、刺激的です」

## ゼミのディスカッションで知識を深める

石山さんは、森山先生のゼミに所属している。3年次前期は文献講読、後期は先行研究のレビューを行い、4年次から卒業論文に取り組む。ゼミでは、ゼミ生同士のディスカッションが、重要視されている。

「高校時代にはセクシュアルマイノリティという言葉すら知りませんでした。知識のなさから、考えていることがうまく言葉にできず悩んだとき、森山先生が的確なヒントを出してくれました。回を重ねるごとに理解が深まり、世界が広がりました。卒業研究では、セクシュアルマイノリティサークルの重要性について調べたいと思っています」（石山さん）

### 大学の思い

## 学び合い高め合える環境を学生自らが創造してほしい

文化構想学部 専任講師 森山至貴（もりやま・のりたか）

文化構想学部では、既存の学問の分野を横断しながら学び、新しい時代を切り開いていくことができる学生を育てたいと考えています。必修科目を少なくしているのも、自らの学びを自分の手でデザインしてほしいという考えからです。そして、自分の関心を突き詰めるには「既存の学問の枠から出る必要性がある」と、気づいて卒業してほしいです。そのため、演習やゼミは少人数制で、多様な価値観を持つ仲間との学び合いを重視しています。我々教員は、議論が深まるような問いかけを心がけています。仲間と議論する中で、互いが個性的な知性の持ち主であることに気づいてほしいのです。視野の広がりこそが、学びを大きく飛躍させます。

また、本学では、学内のダイバーシティを推進し、多様性のある学生が自由に学び合える場を整えています。「クィア・スタディーズ」など新しい学問分野の授業を開講するほか、セクシュアルマイノリティの学生を支援するGSセンター（＊3）を設置するなどの取り組みを行っています。

＊3 Gender and Sexuality Center。性の多様性を尊重し、学生に対して様々なサポートを行っている。